

今年2月の農林水産省の畜産統計によれば、全国の酪農家戸数が49年連続で減少し、ついに2万戸を割り、1万9400戸となったと発表された。肉用牛、豚、採卵鶏、ブロイラーなど全ての畜種で飼養農家戸数の減少が続いている。

輸入飼料、燃料の高騰が直接、畜産農家の経営を圧迫し、さらなる大幅な飼養農家戸数の減少につながる事が予想される。

日 報 論 壇

「山地酪農」の普及を

中 洞 正

米国の余剰

戦後間もなく、植物

の減少に拍
車がかかる

政府、自民党は「守

の産業を崩壊させた歴

穀物を家畜のエサとして輸入することが日本

ことは論を待たない。

るべきものは守る」と

この畜産問題の最大

の工業製品輸出のため

主な酪農国の乳価を

言っているが、現在の

の原因は、過度に輸入

には欠かせない条件だ

見てみれば、米国の

の交渉では牛乳を「例

飼料に依存した体質で

たのである。

円、欧州連合(EU)

外品目にとどめてお

あり、この体質を変え

酪農という産業は、

約40円、中国15〜20円、

「除外品目」にはし

ない限り、際限なく続

料生産が不適で、草し

約7割が山地地帯で、
ここに無尽蔵の草など
の牛のエサとなる植物
資源があり、これを活
用するのが本来の日本
型酪農である。

(宮古市 酪農家・東
京農大客員教授 60
歳)